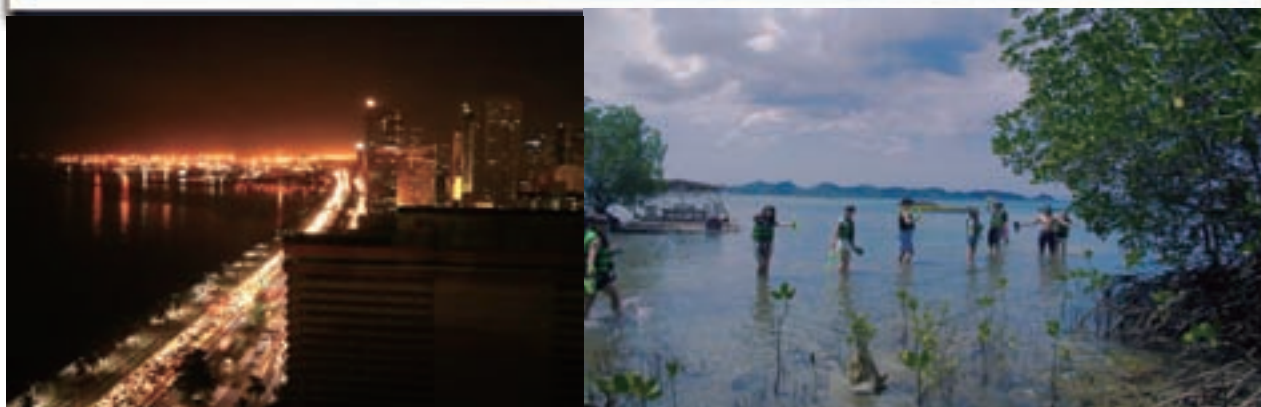




De La Salle University Spring Law Course 2017



2017 年度デ・ラ・サール大学春期法学研修 in フィリピン報告書

発行：明治大学法学部 <http://www.meiji.ac.jp/hogaku/dlsu/>

目次

1. 教員挨拶	2
2. Introduction to DLSU Spring Law Program	3
3. スケジュール	4
4. フィリピンでの生活	5
5. 授業	6
6. ユニカセ・マニラ紫紺会との懇談会	7
7. 休日	8
8. フィールドトリップ	9
9. Message from DLSU Students	10～11
10. 参加者の感想	12～13
11. 2017 年度研修概要	14



1. 教員挨拶

世界へ^{はばた}羽搏こう

法学部長 村上 一博

明治大学法学部は、フィリピンのデ・ラ・サール大学法学部と提携して、2014年3月からデ・ラ・サール大学春期法学研修を実施しています。

この研修では、デ・ラ・サール大学法学部の教員や弁護士から直接フィリピンの法律や司法制度を英語で学びます。「英語で法律を学ぶ」と聞くと、とてもハードルが高く思えるかもしれませんが、こちらの研修は1年生からの参加が可能です。渡航前の事前学習はもちろんのこと、研修先では現地学生のサポートもありますので、海外経験がない学生でも挑戦できる環境が十分に整っています。また、研修の一環として実施される国会議事堂、裁判所、法律事務所などへのフィールドトリップでは、フィリピンの政治と法の現場を身近に実感することができ、さらに、現地の学生・教員との各種の文化プログラムは、フィリピンの歴史と文化と社会をより深く知る機会になると確信しています。

プログラムを終える頃にはきっと、海外でやり抜く力と自信がついていることを実感できるでしょう。ぜひ、日本を飛び出して世界に羽搏きましょう。

Learn Beyond Borders

Program Director Teruhisa Komuro

Meiji University School of Law and De La Salle University College of Law's relationship is still in its infancy, but is very strong. We are sharing the value of the fundamental human rights in legal education, and we are both developing human resources with global perspectives. In this context we have launched short-term study abroad courses in Manila (since 2014) and in Tokyo (since 2015) for law students to understand and respect law and culture of the Philippines and Japan, and to be able to improve the friendly relationship between the two countries.

What we expect from our young law students most is to 'learn beyond borders'. In order to solve the problems and improve each society, the knowledge and experiences of the other country will certainly help. Of course to feel the culture and the hearts of the people will contribute to further mutual understanding. We hope those who participated in the course will support the societies and enhance the relationship between Japan and the Philippines.

2. Introduction to DLSU Spring Law Program

私たちは2018年2月25日から3月11日までの2週間、2017年度デ・ラ・サール大学春期法学研修に参加しました。本研修は、ケンブリッジ大学コーパス・クリスティ・カレッジ夏期法学研修と同様に、「英語で法律を学ぶプログラム」として、2013年度から実施されています。

研修は全て英語で行われ、また現地の生徒や先生との会話や食事の際の注文や、買い物の際など、あらゆる場面で英語を使う機会があり、英語力を向上させることができます。期間は2週間と短期であるため、海外留学に不安を感じている人や初めて海外へ行く人でも気軽に参加することができます。また、研修先のマニラは、成田空港から約4時間半で行くことができ、時差も1時間しか変わらず、気候が温暖なので、とても行きやすく、過ごしやすいです。

デ・ラ・サール大学は、1911年に設立された、とても歴史ある大学で、フィリピン国内で権威のある大学です。メインキャンパスはマニラ市に位置し、全部で8つの学部・大学院があります。フィリピン初のキリスト教を信念とするキリスト系の大学でもあります。フィリピンの中でかなり裕福な大学で、敷地面積も広く、設備が充実しています。また、いくつかある学校の入り口には必ず警備員がおり、防犯対策の為にIDカードを使用し、荷物検査もされ、まるで飛行機に乗る前のような厳重なチェックが行われています。よって、安心して授業を受けることができます。研修では、現地の大学の教授によって行われる、フィリピン法の授業を英語で受けます。一見難しそうに聞こえますが、先生は私たちが理解しやすいようにレジュメを配布してくれたり、難しい言葉には解説をいれてくれたり、また現地の学生も私たちをフォローしてくれるので、とても心強いです。また、授業では、日本の法律ではどうなっているのかと聞かれることもあり、日本の法律への理解をも深めることができます。

授業以外でも、フィールドトリップや遠足など、多彩なプログラムが設けられています。国会議事堂に行き、実際に傍聴や刑務所を見学するなど、とても貴重な体験をすることができます。一方で、週末には海や島へ行くなど勉強の息抜きができ、フィリピンでの滞在を満喫することができます。文化や言語が日本とは異なった環境で過ごすことは、はじめはとても大変ではありますが、日本では絶対に得られない経験を得ることができ、新たな発見をすることもできます。当研修は、1人ではなく複数で行くため、悩みやつらいことがあっても、相談しあい乗り越えることもできます。そして、現地の学生もとても親身なので、本当に楽しい時間を過ごすことができます。研修後には、きっと以前より成長した自分に出会え、行ってよかったと思えるようなプログラムだと思います。



3. スケジュール

ほぼ毎日、法律の授業がありますが、フィールドトリップも多く、刑務所や衆議院や法律事務所など、個人での観光では訪問できないようなところを見学することができました。また、私たちの希望を取り入れて、ビーチや島にも連れて行ってくれました。放課後に大きなショッピングモールに行って買い物を楽しむなど、現地の学生たちの手厚いサポートの下、勉強に遊びに、とても充実した2週間を過ごすことができました。予定が前日に決定することもありましたが、私たちにとってベストなスケジュールリングをしてもらえます。

法律の授業では、憲法や刑法の他にも家族法、租税法、労働法、情報法など様々な法律を学ぶことができました。

日	月	火	水	木	金	土
2月25日	2月26日	2月27日	2月28日	3月1日	3月2日	3月3日
	Campus Tour	Lecture	Legal Research	Lecture	Prison Visit	Free Time
Arrival	Intramuros	Lecture	Lecture	Lecture	Lecture	Lecture
	Dinner					
3月4日	3月5日	3月6日	3月7日	3月8日	3月9日	3月10日
Canyon Cove		Lecture	Free Time	Lecture	Corregidor Island	Presentation
	The Lower House	Lecture	Law Firm Visit	Lecture		Send Off Party
			Uniquease	Dinner		
3月11日						
Free Time						
Departure						

4. フィリピンでの生活

□食事

フィリピンでの食事は想像していたより、日本人の口にも合うものばかりでした。デ・ラ・サール大学の周辺には、たくさん食事の出来るスポットがありますが、それらのほとんどが日本に比べて安価に買えるものばかりなので、たくさん美味しいものを食べました。細かく刻んだ豚肉を卵と一緒に食べる鉄板料理のシシッグや、バナナを春巻きの皮で巻いて揚げるトロンなど、個性的な食べ物が数多くあります。これらを堪能することも、この研修の合間の一つの楽しみでした。スターバックスコーヒーやKFCのような、日本でも浸透しているチェーン店も多く見かけますが、ジョリビーというフィリピン発祥のファストフード店は、マニラ市内の至る所で展開されていて、キャッチーな蜂のキャラクターも相まって、圧倒的な存在感を放っていました。チキンが美味しいので、ぜひ立ち寄ってみてください。



左がジョリビーで提供されるセットメニューの1つ。右がトロン。

□街の様子

フィリピンの街は日本とは違って、交通整備が徹底されていないため、クラクションやエンジン音などで喧騒を極めています。電車も日本ほど使い勝手が良くないので、基本的には車での移動です。その中でもひととき目立つのがジブニーという乗り合いバスのような、フィリピン特有の乗り物です。荒い運転でヒヤットすることもあるものの、とても便利で市民の足となっています。道路に対する自動車の数がとても多いので、渋滞も起こりやすく、基本的に空気は汚いです。車通りの少ない裏道の方では、子どもたちが元気にストリートバスケットをしています。一見過ごしにくい環境に思われますが、賑やかで活気溢れる楽しい場所です。



5. 授業

このプログラムのメインは「異国の地（フィリピン）で法律を学ぶこと」です。この法学研修での授業は、実際に行われているデ・ラ・サール大学の講義に出席するという形式ではありません。デ・ラ・サール大学の教師陣が、私たち明治大学の学生でもわかりやすいように、特別に用意くださった授業で、少人数で行われます。そのため、もちろん授業は全て英語で行われますが、自由に質問ができたり、聞き取りやすい英語で話してくださったり、また先生がこちらの理解度を適宜確認してくださるので、英語力に自信がない参加者でも、満足できる講義です。



本年度の研修では、フィリピン法概説、憲法、税法、情報法、労働法、子供の権利、ビジネス法、刑法、家族法、国際法の授業が実施されました。授業は1コマ3時間、午前と午後に1コマずつというハードなものでしたが、英語を聞き取ること必死で頭をフル稼働させていたので、それほど長くは感じませんでした。

研修の終盤では、実際にデ・ラ・サール大学で行われている講義に参加しました。この講義のテーマが国際刑法であったため、フィリピンと日本の刑法の共通点や違いについて、現地学生と話し合い、チームごとに発表しました。フィリピンの刑法制度については驚くことが多く、また逆に日本の刑法制度が現地学生に驚かれることが多く、面白い議論になりました。



この研修ではテストなどはありませんが、チームごとに1つテーマを決めて調べ、発表するという“Legal Research”が課されます。本年度は3チームに分かれ、それぞれ女性の権利、税法、刑法について調べ、発表しました。調査段階では、どうしても現地サポーター学生の手を借りなければなりませんでした。いろいろアドバイスをくれたり、夜通しの作業にも付き合ってもらったり、いいコミュニケーションになりました。また調査を通して、フィリピン法制度について詳しく深い知識を定着させることができました。

6. ユニカセ・マニラ紫紺会との懇談会

(1) ユニカセとは

ユニカセとは、恵まれない環境下の青少年の自立を目的として国際協力とソーシャルビジネスによる社会課題解決をはかる国際的な団体です。積み重ねた経験や知見を共有し、相互に学び合い協力しあう輪を広げ、「誰もが夢や希望を笑顔で語れる社会」の実現を目指します。



(2) ユニカセの誕生

ユニカセの代表を務めるのは、明治大学の卒業生である中村八千代さんです。NGO の派遣で初めてフィリピンを訪れた中村さんは、貧困層の青少年を取り巻く厳しい現状に大きな衝撃を受けます。ゴミ拾いをしてスラムに生きる者や、ストリートチルドレンとして過ごす者…。そんな彼らが青年となり、親となっても、その子供たちがまた同じ道を辿るという、貧困の連鎖から抜け出せない現実があります。フィリピンにおいて、それほど貧困格差は深刻な問題なのです。そんな不条理な社会の中でも、彼らの生きる道を共に見つけていきたい、そう思った中村さんは、雇用機会の創出のため、2010年に「ユニカセ・コーポレーション」を立ち上げます。運営するレストランを舞台に雇用を創出し、教育を行い、貧困の連鎖を食い止めて、危険にさらされた子どもたちを減らすことがその目的です。また、ユニカセは、青少年育成事業として、語学教育、成長して学校に通う機会すら失ってしまった青少年の復学や、フィリピン政府の認めた代替教育システムへの就学、学校生活に必要な諸費用などのサポートをしています。

(3) マニラ紫紺会の交流会

私たちは、今回、ユニカセの運営するレストランで開催されるマニラ紫紺会の交流会にお邪魔してきました。マニラ紫紺会とは明治大学校友会の海外支部で、マニラで起業したり、会社からの派遣で駐在して働いたりしている卒業生の方がメンバーです。

マニラ紫紺会の交流会では、①自己紹介、②フィリピンの社会における課題(問題点)と解決方法についてプレゼンをしました。プレゼンについては、数日前から皆で集まって話し合うなど準備をしました。

その後、夕食を食べながらマニラ紫紺会の方々と交流しました。夕食では、マニラでの暮らしから就職活動についてなど、多岐にわたって、自由に質問をすることができました。また、様々な分野で働く先輩たちとのお話はとても興味深く、今後の大学生活や将来を考える上で大いに役に立つと思います。マニラ紫紺会の交流会は、年代の違う方と考えを共有できるという、めったにない貴重な体験で、私たちにとって刺激的なものとなりました。レストランでは、てまり寿司やサラダやチキンなど、様々な美味しい料理を楽しむことができました。



7. 休日

このプログラムは勉強も真面目、その分遊びも全力です！！休日にはリゾート地に一泊したり、船に乗ってコレヒドール島に行ったりと、フィリピンの豊かな自然と美しい海を満喫できます。その楽しさはこのページだけではお伝えしきれません…！

学校だけでフィリピンのことを学ぶのではなく、実際に様々な場所を訪れることで、フィリピンという国の多面性、文化、人々の温かさを実感することができました。



1泊2日で Canyon Cove というリゾートでダイビング、プール、ビーチなどを満喫しました。別の休日には船でコレヒドール島まで行き、日本とフィリピンの戦争の歴史について学びました。

8. フィールドトリップ

裁判所や刑務所、議会など法律に関係する施設はもちろん、日本とフィリピンの歴史にゆかりのある場所やフィリピンで一番歴史あるサント・トマス大学などを訪れました。

フィリピンの議会

House of Representatives



フィリピンで一番古い大学サント・トマス大学
美術館や博物館などもあり歴史を学ぶことができる。



Intramuros

ここでは日本軍と比軍が激しく戦った跡や博物館などを巡った。



9. Message from DLSU Students

Cars Carandang

あざーっす！ Thank you for taking the time to read this. We really hope that you take into consideration the pros and cons of studying abroad in the Philippines.

For the pros: The Philippines is a great tropical country. Which means that it's almost always sunny outside! This is great if you want to experience summer even during spring! We have many outdoor activities where you can swim and have fun! De La Salle University is one of the best schools in the Philippines! This means that you'll only get the best education that the Philippines can offer! The students who will guide you are very fun to hang around with! We know that an exchange program is not just about education, but also about making connections around the world. And we definitely would want this whole experience to be fun for everyone!

Now for the cons: There is no con! I hope that all of you would give us a chance to show you how fun it really is here in the Philippines! See you soon!

これを読んでくれてありがとうございます。フィリピン留学の長所と短所を頭に入れていただければと思います。

フィリピンは熱帯国なので、ほぼ一年中晴れています。春に夏を体験できるのです！私たちは泳ぐなど多くの室外アクティビティを用意しています。デ・ラ・サール大学はフィリピンでもっとも優秀な大学の1つなので、フィリピンで最高峰の教育を受けることができます！案内する学生も一緒にいて最高に楽しい人たちです。交換留学は勉強するのみならず、世界中に交友関係を広げることもできます。ここでの全てをみなさんに楽しんでもほしいです！

短所はありません！私はみなさんがフィリピンでどのように楽しんでもくれるのかを見ることを楽しみにしています！



Ezra Solano

Greetings! The students from De La Salle University - College of Law (DLSU-COL) are eager to welcome new students from Meiji University to join the exchange student program here in the Philippines. Over the years, this program has served as a bridge towards meaningful relations between the two countries. Thus, we highly encourage you all to join and continue the connection forged from this program.

This course offers only the highest caliber of educational learning and professionalism. Signing up for this program will help you understand better certain aspects of law which have not been the subject of discourse inside your classrooms. And along the way meet new friends, experience new culture, and gather valuable memories with your fellow law students. A guaranteed experience that will make you appreciate the way legislation works—but with a different kind of flavor. As students of DLSU-COL, we will personally aid you in this journey. We will guide you in your stay, making it a more enjoyable learning encounter. This also goes the same for us; we enjoy learning more about Japanese culture from our Meiji university exchange students. At the end of the program, expect to form strong bonds with your Filipino law student counterparts.

We are very excited to meet you and I hope to see you all soon here in the Philippines!

こんにちは！私たちデ・ラ・サール大学法学部生は、フィリピンとの交換留学に参加してくれる明治大学生を歓迎します。数年間にわたって、このプログラムは両国の友好関係の橋渡しの役割を果たしています。ですので、私たちは、みなさんにこのプログラムへの参加をお勧めしますし、このプログラムに参加することで生まれる友好関係をその後も保ち続けられるよう努力します。

この研修はみなさんに質の高い教育的な学びとプロフェッショナリズムを提供します。このプログラムに申し込めば、みなさんの受けている授業の中にはない法学科目についても学ぶことができます。そして新しい友だちと出会い、新しい文化を経験し、法学部仲間との思い出を作ることができます。また、立法制度に触れるだけでなく、異なる観点からも素晴らしい経験を提供します。デ・ラ・サール大学の学生として、私たちはこのプログラムにおいて、みなさんを個人的に支援します。私たちは、みなさんの滞在をより楽しめるものにして、前向きに学べるようサポートします。このことは私たちにとっても同様で、私たちも日本文化について、多くのことを明治大学の交換留学生から学ぶことを楽しみにしています。このプログラムの終わりには、フィリピンの法学部生との強い絆が生まれることでしょう。

みなさんと、フィリピンでお会いできることを心待ちにしています！



10. 参加者の感想

春野 真弥(Maya Haruno)

この研修では異国で法律を学びます。そんな独特な体験の中で、自分たちが法律を学ぶだけでなく、現地学生が法律を勉強する姿勢の熱心さも学ぶことができました。彼らが忙しいなかでも私たちのサポートに手を抜かない様子を見てみると、自分も頑張ろうという気になり、Legal Research も頑張ることができました。また協力してつくったプレゼンがうまくいったとき、サポートしてくれた学生が誰よりも喜んでくれたことは良い思い出になりました。

In this program, I had a very special experience, learning law in a foreign country. I learned not just Filipino law, but the eagerness that Filipino students have for studying law. They never cut corners in supporting us, though they had a million things to do. Their behavior got me motivated to study and do legal research. I was so happy to see the pleasure on the faces of the Filipino students who supported my research when my presentation finished without any trouble.

押領司 采音(Ayane Oryoji)

今回が初めての海外渡航で、研修前はとても不安でした。しかし、日本ではできない経験をたくさんさせて頂き、参加してよかったと心の底から思います。現地の学生と一緒に研修に参加する仲間と2週間過ごすことで、様々な文化や考えに触れ、視野を広げることができました。

This was my first overseas visit, so I was very anxious before departure. However, I got a lot of experiences which I cannot get in Japan. So, I am glad I took part in it. By spending two weeks with local students and friends who also participated in the program, I was able to expand my horizons.

富田 花穂子(Kahoko Tomita)

今回の研修は、私にとって初めての海外渡航だったということもあり、特に語学力の面で不安が大きかったです。ですが、フィリピンで過ごした2週間はすばらしいものでした。様々なことを学び、経験し、楽しむことができました。また、留学で視野が広がるといいますが、本当にそうだなと感じました。この2週間の研修で、私は充実した日々を送れました。

I have never been abroad, and I was particularly concerned about language skills. However, the two weeks I spent in the Philippines was wonderful. I was able to learn, experience and enjoy various things. Also, people say that by being abroad, we start to see things from different angles, and I felt it's true. Through this programme, I was able to have a fulfilling two weeks.

保坂 幸歩(Yukiho Hosaka)

私にとってこのプログラムは今後の自分の進路、また将来のビジョンに大きな影響を与えました。デ・ラ・サール大学での授業だけではなく、フィールドトリップやその他の体験授業などを通じて、フィリピンと日本の歴史、また現在の関係性など、法律という垣根を越えて一日本人、一学生として吸収するものが多くありました。また、フィリピンは今後さらなる発展を期待されている国でもあります。将来的にこの地で働くかもしれない。そう思ったとき大学2年生から3年生にかけての春休みにこのプログラムに参加できたことは自分の大学生生活残り2年間の視野を広げるきっかけになりました。

The experiences I got through this program have had a lot of influence on my future. Not only through the lectures at De La Salle University, but also through the fieldtrips and a lecture at another university, I learned, as Japanese, the history and present situation of the relationship between Japan and the Philippines. Philippines is one of the most booming countries and I felt that I may one day work there. As such, this programme gave me the opportunity to think how I should spend my last 2 years as a university student.

柳田 峻(Shun Yanagida)

発展途上国であるフィリピンに2週間滞在して改めて自分が日本人であるという自覚と自分の恵まれた環境に気づきました。私自身、今回の研修がきっかけで将来どんなことをしたいのかも固まりました。将来何がしたいのか悩んでいる方には、思い切って飛び込んで欲しいプログラムです。きっと人生の分岐点になるでしょう。

Through staying in a developing country, the Philippines, for 2 weeks, I realized the favorable environment that I had grown up in in Japan. And I decided what I want to do in the future during this course. If you are troubled about your future, I want you to participate in this program decisively. It may become the turning point of your life.

武智 園充(Sonomi Takechi)

研修に参加する前は、英語に自信がなく、楽しみという期待の気持ちより不安を感じていました。しかしながら、研修の2週間で、日本では絶対えられないような経験をえることができました。親身になってくれる先生やいつも陽気な現地の学生、そして一緒に行った6人のメンバーがいてくれたおかげで、本当に楽しい時間を過ごすことができました。海外に興味ある人はもちろん、不安を感じている人でも、気軽に参加していただきたいです。

Before participating in this program, I felt uneasy because my English was bad. However, through these two weeks in the Philippines I got a valuable experience which I could never have got in Japan. I could overcome the difficulties and have a good time, thanks to the kind professors, friendly local students, and the other reliable participants taking part in this program with me. I would like you to participate this program if you are interested in studying abroad, even if you feel uneasy about it.

11. 2017 年度研修概要

■期 間： 2018年2月25日（日）～2018年3月11日（日） 14泊15日

■参加人数： 6人

■研 修 校： De La Salle University College of Law

■滞 在 先： W.H.Taft Residences（1人部屋、朝食自炊）

■研修費用： 約26万円（別途、法学部から助成金7万円を支給）

■成績評価・単位認定： 2週間の研修の「授業参加度」「理解度」、現地での「最終試験（プレゼンテーション）」および法学部での「事前・事後学習」で総合的に評価し、翌年度の春学期集中「Legal Studies Abroad」として2単位付与。

■現地の生活で必要なもの

実際に私たちが生活し、必要だと思ったものを紹介します。参考にしてください。

□持ち物

手荷物に入れておくもの

パスポート、航空券、海外旅行保険証、研修校の資料、携帯電話、パソコン、電子辞書、化粧品、筆記用具、マスク、常備薬、研修校の資料、現金（日本円で3～4万あれば十分です、現地でも両替可）、アイマスクやネックピロー（機内で必要であれば）

スーツケースに入れておくもの

衣類、タオル、サンダル、水着、通学用のバッグ、雨具、洗面用具、パスポートのコピー、参考書、ウェットティッシュ など

□衣服

現地は30度前後でとても暑いですが、建物内はエアコンが効いていて寒く感じることも多いため、薄手のカーディガンやパーカーなどを持っていくことをお勧めします。衆議院などに行くときにはフォーマルな服装をします。白のワイシャツ・スラックス又はスカート・黒の革靴が必要です。通常の授業時は、軽装で問題ありませんが、ノースリーブやショートパンツ、サンダルなどは避けたほうが好ましいです。

□食べ物

現地でも食料品の買い出しに連れて行ってもらえますが、日本からカップ麺やインスタントの味噌汁、好きなお菓子などを持っていくと、なにかと便利です。

□生活用品

食べ物と同じく、現地で調達可能です。しかし、シャンプーなどは普段使用しているものを持っていくことをお勧めします。

□ネット環境

大学内でWi-Fiを利用できます。2017年度は、滞在先でも、1部屋ずつWi-Fiが完備されていたので、特に問題なく生活出来ました。心配な場合は、ポケットWi-Fiを持っていくと良いと思います。

Great Memories in Manila



Great Memories in Hawaii



11. 2017年度研修概要/編集後記

○研修概要

・名称

ハワイ大学春期法学研修

・研修校

ハワイ大学マノア校ウイリアム・S. リチャードソン法科大学院

・期間

2018年2月24日～3月11日

・滞在先

ホームステイ(原則、大学への通学時間が1時間以内) 朝・夕食付き

・研修費用

約44万円 法学部から8万円の助成あり

・参加人数

10人(全員学部生) 研修に参加している人数は全体で50人ほど

・単位認定

研修後のレポートで判断し、翌年度集中法学部科目「Legal Studies Abroad」として成績評価
冊を行い、2単位を付与

○編集後記

・法学部3年(S.H)

本研修は、法学以外にも様々なことを学ぶことができる素晴らしい機会だと思います。

「英語で法律を学ぶ」ことは新鮮で、難しいことですが、挑戦する気持ちがあればとても楽しいものになります。私も、せっかくハワイに来たのだから遊ばなくては、と考えていました。しかし、他大学の学生の話を聞くと法学を学びに来ている、という決意をよく聞きました。私もそれを聞いて、勉強に対してのモチベーションが上がりました。その結果、高齢者法と環境法という日本でも、もっと取り上げられてもいいと思う法律に出会うことができました。

そして、なんといっても本研修の醍醐味はホームステイです。私は、ホストファミリーに恵まれ、地元の人のように2週間過ごさせてもらいました。温かい人たちが多いハワイにまた来たいと思います。少しでも海外で生活してみたい、ハワイの温かい雰囲気に触れたい、英語または法律を勉強したいという人はぜひ、参加してみてください！



10. ハワイ大学の教員紹介

ハワイ大学の2名の先生を紹介します。

1. 木村スベッサー先生

スベッサー先生は、ハワイ大学法科大学院の
ご出身であり、英語はもろんのこと、日本語
もお上手な方です。ハワイ大学では初めにスベ
ッサー先生が、私たちを出迎えてくださいました。
主に授業ごとに各先生方のご紹介をしてくださ
ったり、事務連絡をしてくださいます。
また、皆さんがフイロトリップに行く際に
も同行し、それぞれの場所の案内をしてくださ
います。困ったことがあったら相談にのってくださ
ったり、様々な面でサポートしてくださるので、
とても心強いです。

2. レビン先生

レビン先生は、日米法比較や同性婚などについ
て教えてくださいました。レビン先生も日本語が
お上手で、授業は英語を加えながら、難しい箇所
は日本語で説明してくれて、とても楽しく面白い
授業でした。
レビン先生はサイクリングが大好きで、ハワイ
の自転車の貸し出しサービスの「biki」を使って、
いろいろなところに出かけることが趣味です。
積極的に話しかけてくださる先生です！



他にも各講義を各先生が担当します。
これは交渉の授業です。

9. 参加者の感想

今回のハワイ大学の法学研修に参加した学生の感想をまとめました！

- ・ ハワイでの2週間は、非常に印象的なものになりました。日本法と大きく異なるアメリカ法やハワイの明るい人々、世界観の違いに触れ、異国の地で迷子になり...視野が広がった気持ちです。助けてくださった皆さん、本当にありがとうございました！
- ・ アメリカ法や日米の法比較を授業で、日常会話をホームステイで学ぶことができました！とても有意義な2週間でした！

- ・ 僕のハワイ大学留学は、最高に **perfect** でした。ホストファミリーに恵まれ、一緒に学習した仲間にも恵まれました。
ハワイ最高です！皆さんも是非行ってみてください！

- ・ 英語で法律を学ぶというプログラムの中で、分かりにくい点については先生方が通訳してくださったので、耳で聞いた情報と日本語の解説でより一層理解が深まりました。約2週間という短い期間でしたが得たものは大きかったです。

- ・ ホームステイではホストファミリーとコミュニケーションをとることができました。今でも連絡を取っています。バスの乗り方はマスターしました。
- ・ ハワイの裁判所や女性刑務所に訪れることができ、日本ではできない経験ができたので良かったです。

- ・ ホームステイで海外での生活を経験し、朝から大学で授業を受け放課後はみんなで様々な場所を観光する、とても充実した2週間でした。
- ・ ホームステイを通じて英語による日常のコミュニケーションを体験できました。2週間という短い期間でも、話す力・聞く力の向上が感じられて良かったです！

- ・ 大学の授業には日本では学べないような科目もあり、とても刺激的でした。英語での授業は不安でしたが、先生方がサポートしてくれるので問題ありませんでした。僕にとって新しいことばかりで楽しかったです！

大学での講義やホームステイでかけがえのない経験のできた学生がたくさんいたみたいです。初めて海外に行ったという学生もたくさんいたので、まだ海外に行ったことのない人でも心配ありません。迷っている人はぜひチャレンジしてみてください。

8. スケジュール

♪ある一日のスケジュール

- ・ 7時30分～8時30分 登校 (ホームステイ先によって通学時間は変わります)
- ・ 8時30分～15時00分 講義 (毎日3コマ、1コマ90分です)

～ここからFREE TIME !!～

- ・ 15時20分～18時00分 ショッピング at アラモアナショッピングセンター
- ・ 18時00分～帰宅 夕食&各々フアミリーと交流
- ・ 0時ごろ就寝

1～2日目 (Sat～Sun)

待ってました、ハワイ！快晴の空、暖かい南国の風を想像していた私たちですが、まさかの曇り。先行きが少し不安でした…。空港に到着してから、引率の先生と合流し、そこからすぐに2週間お世話になるホストファミリーと対面。そのままハワイ到着後の2日間は、それぞれフアミリーと過ごしました。

3～7日目 (Mon～Fri)

講義開始！法科大学院の校舎で朝8時30分～15時16時まで講義。馴染みのある刑法や憲法の他に、原住民の方々の権利についてなど、アメリカ独自の法律を英語で勉強。放課後は、ワイキキの街やビーチを堪能！ザ・ロコ(地元の人)の気分を味わえますよ！

8～9日目 (Sat～Sun)

ついにこの日がやってきた！ハワイでの休日の過ごし方といったら、ビーチとショッピング！みんなが集まって、観光スポットや天国の海、アウトレットなどオアフ島を楽しんで楽しみまうた！ダイアモンドヘッドはぜひ登ってください！午前も午後も超オススメです！

10～13日目 (Mon～Thu)

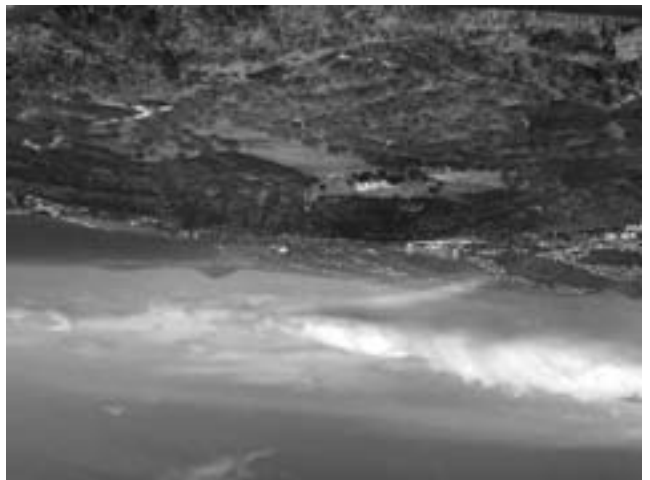
ハワイに来て2回目の週初め。受けてみたらわかるのですが、講義は楽しいものばかりです。フアミリーとトリップもあり、よりハワイやハワイの法律について理解を深めることができます。女性刑務所や裁判所、州知事を訪問したりと、日本では体験できないことができます！

14日目 (Fri)

この日はオアフ島で自由に過ごせる最後の日。島の南から北まで、ハワイの交通機関であるバス＝The Busで駆け抜けました。夜はワイキキのビーチで、優雅に夕食を楽しみ、花火を見ました。そして、家に帰りホストファミリーと最後の夜を過ごしました。

7. ハワイの魅力

ハワイの魅力は、やはり海が綺麗なところですよ。ワイキキビーチは有名で、たくさん観光客でにぎわっています。ワイキキビーチのほかに、ハワイにはビーチがたくさんあって、なかでも綺麗なところは、オアフ島の東海岸カイラにあるラニカイビーチです。ラニカイビーチは、「全米で最も美しいビーチ」に選ばれているなど、知る人ぞ知るビーチですよ。ハワイ語で「ラニ」は天国、「カイ」は海のこと、その名の通り天国のような、エメラルドブルーで美しいビーチです。オアフ島の北向きの海岸地域はノースショアと言って、そこはサーフィンで有名なビーチがあります。スカイラインビレッジなども体験できるそうなので、アクティビティが好きな方にはおススメです。



ハワイは自然が豊かなところも魅力の1つです。ワイキキビーチから見えるダイヤモンドヘッドはハワイを代表するスポットです。私たちも登ってみました。頂上までの道は急な階段があったりしましたが、1時間以内で登頂することができました。頂上に着くと、ホノルルを一望でき、また、その時、偶然大きな虹を見ることができました。ハワイは虹がよく見られることでも有名です。

ワイキキでは、毎週金曜日にヒルトン・ハワイアン・ビバレッジから打ち上がる花火を見ることが出来ます。5分ほどの短い時間ですが、ビーチから見える花火は迫力があります。常夏の国ハワイならではの経験ができるので、ぜひ見に行ってみてください。

また、アラモアナセンターやワイキキビーチ周辺にはショッピングセンターが多くあり、アメリカのブランドのものは日本よりも安く買えるので、ショッピングも楽しめます。アラモアナショッピングセンターは大規模なショッピングセンターなので、2日以上かけても回りきれないくらいお店がたくさん入っていました。

6. ハワイの生活

・交通手段



ハワイには電車は通っていないので、通学の際や休日出かけるときには「The Bus」と呼ばれるバスで移動しました。5.5ドルで毎日1 dayバスを買って、それを運転手さんに見せて乗ります。降りたいバス停が近づいたら、窓際に張られているロープのようなものをついて立ち止まらせます。このバスは遅延することも多く、時間より早く出発してしまうこともあります。時間に余裕をもって行動しましょう。はじめのころは、バス停の名前が聞き取りづらかったり、乗り換えやルート調べるのに苦労したりしましたが、慣れれば行きたい場所へ簡単に行くことができます。

・食事

ハワイにはおいしい料理がたくさんあります。ロコモコやボキ、パンケーキ、ガーリックシュリンプ、マサダなど、ハワイならではのグルメを楽しむことができます。特にパンケーキはハワイから日本にも店が進出していますが、現地で食べると本場の味が堪能できます。ハワイではプレートトラフチが人気で、一枚のプレートに1食分の食事が盛り付けられます。プレートトラフチをライクアウトして、ビーチなどの眺めがよいところに持って行って食べるのもおすすめです。



・ホームステイ

ハワイのリアルな生活を体験できるのがホームステイです。私は初めてのホームステイだったので、とても緊張しましたが、ホストファミリーは優しくてほっとしました。私のホームステイ先には、私以外にも、日本人やチリ人やトルコ人などの留学生がいて、英語で会話をして、ほかの国のことを知ることができたので、とても楽しかったです。家での食事は、自分で冷蔵庫にあるものを使って食べる、という形で、洗濯機を使えるのは、週に1回でした。はじめは海外での生活は不安でしたが、特に不自由なく生活ができたのでよかったです。ホストファミリーがどんな人になるかはわかりませんが、自分の英語力を磨くのに絶好な機会だと思うので、ぜひチャレンジしてみてください。

4. Goodsell Anderson Law Firm

ハワイにある弁護士事務所を訪れました。弁護士の方が仕事の内容やロールでのお話をしてくださいました。とても綺麗なオフィスでした。



6. Women's Community Correctional

最後に、女性刑務所を訪れました。ここでは受刑者に応じて更生プログラムが組まれています。刑務所の中では思っているよりも自由な環境の中、受刑者は過ごしています。実際に入ってみなければ分からなかったことも沢山ありました。



5. State Capital Center

ハワイ州議会事堂では、実際の会議を見ることができました。州知事はお忙しい方ですが、私たちのために時間を作って、お話してくださいました。

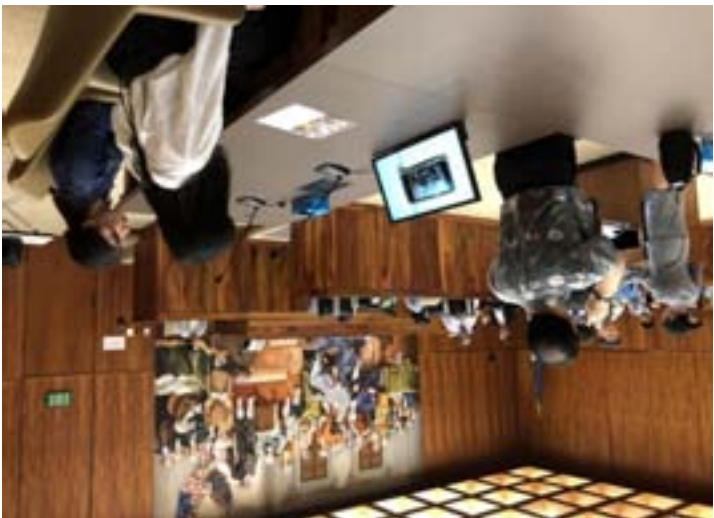


5. ツトリブルツ

1. Federal District Court

アメリカ合衆国では連邦制を採用しており、連邦裁判所と州裁判所の2種類の裁判所が存在します。ここでは、女性の判事の方にお話を伺いました。

実際の法壇に座る体験ができました。



2. State Circuit Court

次は州裁判所。ここでも判事の方にお話を伺いすることができました。

貴重なお話なので、聞き逃さない様に。



3. Supreme Court

カメハメハ大王像で有名なこの建物は、1階が博物館、2階が裁判所になっています。ここでは主にLGBTについてのお話を聞きました。カメハメハ大王像は迫力があります。



結婚平等法	アメリカ取引法	契約法	国際刑法
老人法	労働法	環境法	アジアにおける人権

結婚平等法は日本ではあまり法整備が進んでおらず、ハワイ大学の法学研修ならではの分野なのではないでしょうか。この講義で学んだ知識は後に行われる、フイールドトリップの際の話の理解にも役立ちます。アメリカ取引法では、レットツクスフレンの Levinson 先生が野球におけるビジネスを例に挙げながら説明してくださるので、野球好きの方は楽しめるかもしれません。どの講義にも最後に質問の時間が設けられており、疑問に残ったことがあってもすぐに解決できます。

・講義を受けてみて

このプログラムは語学研修ではなく法学研修です。ですから、英語を使って法律を学ぶプログラムです。英語を使って英語を学んだ経験は皆さんあるかもしれませんが、日本語以外で法律を学ぶという経験をした人はほとんどいないのではないのでしょうか。その点でこの法学研修は大変貴重な機会と言えるでしょう。もちろん、英語による講義を受けることは、英語が得意な人にとっても不安に感じるでしょうが、引率の先生方、現地の先生方が手厚くサポートしてくださるので、きっと2週間を乗り越えることができます。

ただ、2週間という期間は非常に短いです。ここでの経験が、直接、将来につながることはないと思います。ですが、この法学研修を通じて、新たな課題が見つかったり、自分の能力に気づいたりするかもしれません。それを日本に帰ってから、今後の学習の糧にできれば、ここでの経験が大きな財産になると思います。

このプログラムでは日本ではできない多くのことが経験できます。新たなことに挑戦してみたい人や、何かきっかけが欲しい人は、ぜひ参加してみてはいかがでしょうか。



4. レクチャー

・講義の形式

講義は基本的に英語で行われます。ですが、このハワイ大学の法学研修では引率の先生方が要点や補足の説明を日本語で行いながら講義が進められます。この点は、明治大学で用意された他の法学研修のプログラムと大きく異なり、英語力に自信のない人でも講義内容が理解できます。

また、講義の形式は先生によって異なります。パワーポイントを使いながら丁寧に説明してくださる方、学生への質問を頻繁に行う方、学生同士によるディスカッションを求める方など様々です。日本の法学部の講義とは異なる点も多々あり、困惑するかもしれませんが、刺激的で実りある時間を過ごせるでしょう。

・講義のスケジュール

講義は1コマ90分です。1日に2から3コマ講義があります。

通常の講義に加え、キャンパスや図書館のツアーなども行われます。また、昼休みにはご飯を食べた後、キャンパス内をぶらつく余裕もあるので、ハワイ大学の雰囲気十分に味わうことができます。

・講義の内容

前半の講義のテーマ

交渉学	アメリカ法入門	日米比較法	アメリカ憲法	刑法
ハワイ先住民の権利 図書館情報調査方法				

はじめはアメリカ法入門や日米比較法などで今まで学んできた日本法の知識などを活かして、アメリカ法の基礎を学ぶことができます。特に、日米比較法を担当する Levin 先生は、日本語が非常に堪能で、彼の講義はほとんど日本語で行われます。交渉学では、他大の学生とペアになってアクティビティをします。これをきっかけに、他大の学生とも仲良くなれるのではないのでしょうか。ハワイ先住民の権利では、ハワイの歴史とともに制度の変遷を教わります。歴史と法制度の結びつきの深さに気づかされました。



3. ハワイ大学の紹介

・ハワイ大学マノア校

- ・1907 年創立
- ・オアフ島のホノルル北に位置
- ・敷地面積は和泉キャンパスの 180 倍以上！
- ・学生数：約 19,000 人
- ・様々な大学ランキングで上位 1.5%に常に入るとも優秀な大学(マノア校 HP 参照)



・ウリアム・S・リチャードソン法科大学院



- ・ハワイ大学マノア校に附属するロースクールであり、ハワイ州唯一のロースクール(米国では法学部はなく、法科大学院で法律を学ぶこととなります。ですので、実質的にハワイで法学を学ぶ唯一の場所ともいえます)
- ・専任の先生は 36 人で、様々な国籍の先生で、全米でも屈指の研究レベルを誇ります。
- ・ロースクール独自の図書館をもち、学生はそこで 24 時間こもって勉強することができます。

2. プログラムの紹介

・概要

講義およびフイールドトリップを通して、英語で法律を学ぶ短期海外留学プログラムです。英語での授業ですが、引率の先生が通訳をしてくださるので、安心です。

・期間

2018年2月24日(土)～2018年3月11日(日)の濃厚な約2週間！

・特徴

講義

現地の大学の教授の講義を受講することができます。もちろん、講義は英語で行われます。が、わかりにくい部分は各大学の引率の先生が通訳をして、私たちの理解を促してください。英語力に多少の不安を抱いている人でも、安心して講義を受講することができます。また、日本にはない講義もたくさんあるので、自分のやりたいことが見つかる可能性があるかも？！

放課後や休日

平日の講義は午前で終わる日や、15～16時で終わる日など様々で、放課後はオアフ島の散策をすることができます。休日は、まさにバカンス！オアフ島のダイナーなどところに行くもよし、ワイキキビーチで遊ぶもよし。南国ハワイの雰囲気を感じる分楽しんでもください！

他大学との交流

他大学(2017年度は琉球大学、愛知大学、青山学院大学、早稲田大学)の法学部生、法科大学院生とともに、講義を受けます。地域性、校風が違いため、異なる価値観や意見の交換ができ、帰国後も交流できる関係を築くことができます。

・ホームステイ

本プログラムの目玉とも言えるホームステイ。ホームステイとは、お客様としてではなく、家族の一員として生活することです。家庭でのコミュニケーションは英語でしか取れません。必然的に英語を話さなければならぬため、英会話スキルの向上が見込まれます。また、家庭によっては日本や他の国からの留学生を同時に受け入れていることもあり、同じ研修の参加者以外の同世代の人たちとの交流ができるかもしれません。

そして、忘れてはならないのは、自分も2週間とはいえども**家族の一員だ**、ということ。家族として、積極的に自分からファミリーに話しかけましょう！

1. 教員あいさつ

海外への架け橋

法学部長 村上 一博

法学部では、2013年度からハワイ大学春期法学研修を実施しています。この研修では、ハワイ州唯一のロースクールである、ハワイ大学マノア校ウイリアム・S・リチャードソン法科大学院において、英語で法律を学ぶほか、州内の法律事務所、裁判所および政府機関の見学や州法律家協会の行事に参加するなど、盛り沢山の充実した内容となっています。

ハワイは日系人が多いという特殊な土地柄であり、また観光地としても絶大な人気を誇る場所ですので、海外経験がないという方でも比較的大きな不安を抱えることなく生活ができます。また、とくに初めて海外留学する学生のために、事前のガイダンスや現地での通訳などのサポートが整っているのです。英語力に不安のある学生も安心して参加できるプログラムです。

ぜひ、ハワイ大学春期法学研修に参加し、この研修で得られた経験をもとに国際的視野を広げ、海外への架け橋を築きましょう。

異文化理解を通じて日本を知る

法学部専任教授 佐々木 秀智

この報告書は、2017年度に実施された米国ハワイ大学マノア校における短期法学研修プログラムに参加した学生が作成した報告書です。参加者自身の体験を基に作成されたもので、これから海外留学プログラムへの参加を検討している方々にも参考になる情報満載です。

ある国の現行法制度が形成された背景には、様々な文化的・歴史的要素があります。特に米国法では、「歴史的継続性」がその重要な特徴として挙げられます。また各法律で用いられる英語の言葉・言い回しにも文化的・歴史的背景があります。このプログラムでも、ハワイ州の法制度のみならず、同州の文化・歴史について多く学んだと思います。同州にも、長い歴史や豊かな文化があります。その中で様々な統治が行われ、現在の法制度が形成されたのです。

このことは日本も同じです。米国ハワイの法文化・歴史を学ぶ日本と比較することで、日本の法文化・歴史の理解がさらに深まります。外国法の文化・歴史を学ぶことは、わが国の法制度・理論の理解にとっても有益なことです。

今回のプログラム参加者の皆さんが、ハワイ大学での法学学習を通じて異文化理解の基礎訓練の中で習得した知識と経験を生かして、今後の法律専門科目の学習をさらに深め、自らの将来を切り開いていくことを願っています。



1. 教員あいさつ	2
2. プログラムの紹介	3
3. ハワイ大学の紹介	4
4. レクチャー	5, 6
5. フォーカルポイント	7, 8
6. ハワイの生活	9
7. ハワイの魅力	10
8. スケジュール	11
9. 参加者の感想	12
10. ハワイ大学の教員紹介	13
11. 2017年度研修概要／編集後記	14



2017年度明治大学法学部 ハワイ大学春期法学研修報告書



発行：明治大学法学部

<http://www.meiji.ac.jp/hogaku/hawaii/>